

幕下は磯ノ海封春日根

幕下は三、四日目が行われ、3連勝とした音柱、磯雷光、自力岳、風神丸4人が激突。奇しくも春日根部屋と磯ノ海部屋同士の直接対決。

まずは先場所優勝の千丈岳に続き部屋2連覇をかける風神丸が自力岳と対戦。風神丸は立ち合いから一気に左を差して速攻で寄り切り破った。

格上と見られた自力岳に対し、真つ向勝負で寄り切るなど幕下でも十分に戦えるところを見せつけた形だ。

次に音柱と磯雷光戦。これは予想通り音柱が下馬評通りの強さを見せて一気に向正面に寄り切りに下した。これで千秋楽は風神丸と音柱の一騎打ちということになった。

春日根親方は「音柱は十両を通り越して間違ひなく幕内で活躍する力士だよ」と言っているように、かなりのポテンシャルの高さを見ている。千代鈴、西神門に次ぐ存在となりうるのか、他の部屋にとっては戦々恐々となりそう。

一方の風神丸も自力岳に勝ったことで「音柱にも勝って兄弟子の千丈岳に続きたい」と新幕下での優勝に意欲を燃やしているらしい。果たしてどちらに軍配が上がるのか見ものである。

風神丸が勝てば磯ノ海部屋の連続優勝となり、音柱が勝つと153回場所での西の富士が幕下優勝して以来3年ぶりの優勝ということになる。



磯雷光●(寄り切り)○音柱



風神丸○(寄り切り)●自力岳

その他では、幕下付け出しの初土俵から二場所連続で勝ち越している達子波が、得意ののど輪からの押し倒しでまたも勝ち越しを決めた。

この調子で行けば十両昇進も夢ではなく、かなりの確率で現実味を帯びてくるだろう。そして同部屋の難波山と千曲海も2勝2敗として千秋楽に勝って達子波に続きたいところだ。

上位で十両入りを狙う対戦では、椿富士が熱戦の末に黒田を寄り切って3勝目を上げて一場所での十両復帰へ前進。五分の星になった黒田は、十両昇進を果たすためには千秋楽に勝って朗報を待つ結果に持ち込みたい。

新幕下では竜雲が英風に勝って勝ち越しを決めたが、金勝山は同じ新幕下の紅の華に敗れ三段目からの出直しとなった。

三段目へ序の口

育成会は錦風部屋が全段での優勝の可能性が見えてきた。

三段目で4連勝としたのは錦風部屋の逆青雲と栃尾山。逆青雲は三日目に春日根の徳泉を、栃尾山は四日目に先場所序の口で敗れているこちらにも優勝候補の把若寿を下した。

これにより、千秋楽の全勝同士での優勝の決着はなくなり、仮に両者が敗れた場合1敗祭りの芽も出た。それなら最大7人による決定戦となる見込みだ。



片貝●(寄り切り)○逆青雲



把若寿●(寄り切り)○栃尾山

注目される幕下昇進争いでは逆青雲が現状一番手で、里の若、片貝が続ぎ、更に山下、伊勢の里、光錦、徳泉らがこれに割って入るかというところ。

そして、優勝候補筆頭と目され昇進は間違いないと思われる伊勢の里は、よもやの連敗で千秋楽に勝ち越しを賭けることとなった。

序二段は、鎧島が石神井、筑波海を、福笑が戸締、若西東をそれぞれ破って4連勝。千秋楽に優勝を賭けて対戦する。

鎧島は先場所からの連勝を9まで伸ばし、優勝で二段制覇の快挙に期待がかかる。しかし、福笑もそれだけ待たさず、序の口で虎視眈々。序の口での対戦時には敗れただけにリベンジと行きたいところ。

この鎧島の快進撃には朝日松理事長も「将來は横綱だね」と振るが「まだ二場所目なのにそんなのまだわかんないよ」と返す錦風親方。

だがこれまでも錦風部屋の序の口優勝力士は何人かいたが、この鎧島は別格かも知れない。もし優勝となれば親方の手応えも確信に変わっていくことになるはずだ。



鎧島○(寄り切り)●筑波海



福笑○(寄り切り)●若西東

序の口も錦風部屋の逆本が会心の相撲で4連勝。田志と桃黒龍を左差しから寄り切って圧倒する相撲を見せた。

もう一人の全勝庄内は、四日目に若肘木と2回取り直しの末に何とか勝って逆本の千秋楽決戦に駒を進めた。

逆本は実兄の逆元春の後を追って入門。四股名の下の名前は十郎で、勝手に気が利かした鹿賀乃戸親方が「兄ちゃん九なんだから十だね」という単純な具合で決まったよう。今では錦風親方もすっかり気に入っているようである。

千秋楽、まずは逆本十が勝って兄弟子が優勝で続くか、同部屋による三段制覇は未だ達成されていないが、錦風部屋が偉業を成し遂げるのにも注目されそう。

(勝間田)



逆本○(寄り切り)●桃黒龍



庄内○(押し倒し)●若肘木

